

中小企業ぎふ

Vol.657

2018年11月25日発行

隔月25日(年6回)発行



クローズアップ企業 2～3 岐阜県可児工業団地協同組合 組合員 「鳥羽工産株式会社」

- 会員組合紹介 4～5
- 先進組合事例紹介 5
- 中央会の活動 6～8
- 組合等の活動 9～11
- 景況レポート 12～13
- 組合事務局職員の紹介 14
- 組合士の問題に挑戦! 14
- 中央会職員レポート 15
- 産業雇用安定センターからのお知らせ 16
- インフォメーション 17
- G-Club (ぎふものづくり連携倶楽部) からのお知らせ 18



連携の力で無限の可能性にチャレンジ!
～中央会は、組合・中小企業の挑戦を応援します～

岐阜県中小企業団体中央会

岐阜市数田南5丁目14番53号 OKBふれあい会館9階
TEL 058-277-1100(代) FAX 058-273-3930
URL <http://www.chuokai-gifu.or.jp>

クローズアップ企業

鳥羽工産株式会社

【岐阜県可児工業団地協同組合 組合員】



《企業概要》 本社 岐阜県各務原市各務おがせ町9丁目260番地
可児工場 岐阜県可児市姫ヶ丘2丁目11番地
代表取締役 傍島 茂夫
<http://www.tobakoken.co.jp>

岐阜県可児工業団地は、可児市の丘陵地に3期にわたって開発・造成された東海地方最大級の大型工業団地です。航空・宇宙産業をはじめ、自動車、船舶、電気機器、工作機械、通信機器、住宅機器など、世界レベルの技術とノウハウを持った多種多様な企業が集積し、一大ハイテクゾーンを形成しています。

岐阜県可児工業団地協同組合は、第1期造成工事が完了した後の昭和49年に工業団地に進出した企業により設立されました。組合では、組合員に安価な料金で電力を供給する共同受電事業をはじめ、組合員にとって快適な工業団地を目指し、共同施設・用地の運営管理を行っています。

また「災害につよい」「環境にやさしい」「雇用を大切にする」という方針のもと、BCP策定やその訓練、サイバー攻撃対策、働き方改革推進等に積極的に取り組んでいます。さらに次世代を担う青年部“ニューリーダーズ”の活動も活発です。

今回は、団地内に6つの事業所を構え、航空機や車輛の部品を金型の設計・製作から、プレス、さらに溶接・組付けまで、一貫対応できる技術と設備を備えた「鳥羽工産株式会社」を訪問し、組合の理事長でもある傍島茂夫社長にお話を伺ってきました。

◎御社のこれまでの沿革について ご紹介ください。

☞ 傍島社長

弊社は、先代・傍島慎朗が昭和33年に創業しました。先代が幼少期を過ごした三重県鳥羽市が社名の由来です。先代はもともと高級紳士靴メーカーに勤務し、皮やゴムといった靴の素材を扱っていたことから、その経験を活かして防振ゴムや床用ゴム板を販売する商社を設立したのですが、昭和35年には、岐阜県稲葉郡（現・各務原市）で航空機リキャストアルミプレート製作を、翌36年には航空機用ZAS型の製作を始め、メーカーとしての歴史がスタートしました。

時代はモータリゼーションの波が到来しており、航空機から自動車業界へも進出し、自動車用のZAS型製作やプラスチック成型の金型製作に着手、また豊田市に工場を設けて検討型製作のサービス体制を確立しました。そして、岐阜県可児工業団地の誕生とともに可児工場を建設し、プレス部門・板金部門を新設しました。私はトヨタ系列の自動車部品メーカーに5年間勤めた後、可児工場新設と時期を同じくして入社します。先代は、私が入社して間もなく病に倒れ、残念ながら復帰することはありませんでした。それから40年近く代表を務めています。

その後ZAS型設計・製作からプレス・板金までの一貫体制の強化、熱処理や射出成形機の導入、試作部品のトライアウト、品質・環境マネジメントの認証取得等にも取り組みました。現在、各務原市・可児市・豊田市・五所川原市（青森県）の工場で、金型の設計・製作から、プレス、溶接・組付けまで一貫対応できる体制を整え、主に自動車

開発用（試作車用）金型・部品やボディーパネル、航空機部品を製造しています。

今年9月に創業60周年を迎えましたが、現在も創業当時と同じ航空機・自動車部品業界で仕事ができていることに、改めて先代の先見の明を感じています。



巨大な航空機の機体部品成形を行う液圧成形プレス

◎御社の特徴や方針を 教えてください。

☞ 傍島社長

特別なことは何もしていません。ただ、当たり前と言われることを大切にしています。

経営理念『徳と品格ある企業』のもと、「愛され期待される製品」「自動車・航空宇宙産業繁栄の黒子に徹する」「お客様に心の豊かさを届けよう」を掲げています。

当社の特徴として、金型の設計・製作から、プレス、溶接・組付けまでの「一貫生産」や国内の自動車メーカー・航空機メーカーとの「直接取引」があります。大企業の外注化は間接工数を減らすことが目的であり、お客様に喜んでいただけることとして一貫体制が整ってきました。直接取引を継続することは簡単なことではありませんが、短納期、品質・技術を常に磨いて高めるための努力を継続しています。

新型車の開発用のために製造する金型やパネルは、大量生産方式とは異なり、比較的少量の製品を製作する方法や手順を検討・工夫する作業が主体になるため、「とにかくトライしよう」という姿勢で臨んでいます。新モデルの開発は特に機密事項を扱うことも多く、信頼関係も大切です。取引先ごとに守秘義務があるため、複数の工場で同じ設備を導入することもあります。



試作から量産まで携わるN700系の顔部分

当社は黒子に徹し、手掛けている製品を公表することはありませんが、試作開発に携わった車や飛行機、新幹線を見かけることは、社員の誇りにも繋がるのではないかと考えています。

◎組合に期待することは何ですか？

☞ 傍島社長

組合は、組合員が世界に羽ばたく企業として成長するための土壌となり、時には中小企業者が大企業の良いところを吸収し、相互に切磋琢磨できる場であることを願っています。

可児工業団地は、世界水準の大企業と地元中小企業が一体となっている全国でも珍しい工業団地です。そういった組合環境に身を置く中、中小企業は大企業から見習うべき点があると感じています。例えば、BCP策定や福利厚生の実、外構などの隅々まで配慮が行き届いた設えなど、大企業が率先して行っている取り組みについて、多くの中小企業者が“そこまでできない”と実行していないことがまだまだあると思います。組合活動には、団地内の大企業が積極的に関わっており、組合のBCP策定にあたっては委員会メンバーとして自社での経験を活かしてもらっている他、関連企業に視察訪問するなど、大企業の視点を組合事業に積極的に取り入れています。

また、当組合には次世代の経営者が集い研修等を行う「ニューリーダーズ」という青年部活動があります。私自身、青年部の立ち上げから長年に亘り携わっており、大変勉強になりました。

こうした組合活動には、組合事務局の存在が必要不可欠です。私は理事長を拝命して5年目になりますが、事務局職員の待遇改善を提案し、気持ちよく働いてもらう環境づくりを目指してきました。組合は組合員のためのサービス業であるという認識のもと、これからも事務局職員の活躍に期待しています。

◎経営をしていく上で大切にしていることを教えてください。

☞ 傍島社長

私は全ての人が平等に大切にされるべき存在だと思っています。役員・従業員を分け隔てることなく、全員が安心して気持ちよく働ける環境を整え、生活の安定を図ることが私の役割です。

当社は、全員が正社員です。子ども手当の充実や30分単位の有給休暇取得など、様々な状況の中でも安心して働けるような仕組みづくりに取り組んできました。また、掃除は役員も含め従業員全員が交代で行っています。工場内やオフィスはもちろん、トイレ掃除、草刈り、外構の剪定も行います。自分で掃除をすることで、ものを大切にする意識が自然と芽生えてきますし、お客様を気持ちよくお迎えすることもできると思います。

また、私は社員一人一人のプロフィールを把握し、仕事に限らず趣味の話など、自ら声をかけることを心掛けています。やはり人に気にかけてもらうと嬉しいものですし、こうしたコミュニケーションが仕事のやりがいにも繋がるのではないかと考えています。

今思い返してみると、事業承継の期間が短かったからこそ、従業員目線を貫いていくことができたのかもしれない。



外構の剪定やお花のお世話は役職員が手掛ける

◎最後に御社の今後の展望、抱負をお聞かせください。

☞ 傍島社長

自動車業界は、電動化や自動運転、コネクテッドカー、カーシェアリングといったキーワードで語られる“100年に1度の大変革期”に直面しています。また、グローバル化は加速する一方です。

こうした中で当社が目指すのは、「手で作ること」による生き残りです。ものづくりは、手で作業することにより、気持ちが入ります。バーチャルで出来る“モノをつくらないものづくり”という考えもありますが、我々は苦勞して作る、手間がかかることを、敢えて選んでやっていきたいと思っています。

『徳、品格は一日にしてならず』これからも、誠意ある対応を心がけ、常に技術を磨き、当社にしか出来ないことを探し続けていきたいと思っています。

【組合概要】 岐阜県可児工業団地協同組合

理事長 傍島茂夫(鳥羽工産株式会社 代表取締役)

〒509-0249 岐阜県可児市姫ヶ丘2-8

組合員数：28社

主な事業：共同施設・用地の維持管理事業、共同受電事業、教育情報事業、組合金融事業、高度化学事業、災害防止事業、安全衛生管理事業、福利厚生事業、事業所動向調査事業 等



組合紹介

こんな活動をしています！

本会は、多種多様な業種・業態の組合等が会員となっており、これが本会の特徴でもあります。各組合がその特徴を活かし日々活動を続けていますので、皆様の仲間を紹介します。



平湯温泉旅館協同組合

- 理事長 中村政保
- 組合員数 16人
- 設立年月 昭和33年9月
- 住所 岐阜県高山市奥飛騨温泉郷平湯763番地の191
- TEL 0578-89-3030

◆組合の歴史・活動



中村理事長

平湯温泉は、岐阜県・長野県・富山県にまたがる中部山岳国立公園北アルプスの岐阜県側西端・標高1,250mに位置し、奥飛騨温泉郷の玄関口として、また、上高地や乗鞍岳、新穂高ロープウェー、高山など日本を代表する観光地の拠点として親しまれています。その歴史は古く、武田信玄ゆかりの秘湯として伝説が言い伝えられて

います。約40の源泉は豊富な湧出量を誇り、平湯温泉の全施設が露天風呂を持ち、源泉かけ流しを堪能できます。

平成9年に安房峠道路が開通し、冬期でも長野県と通行可能になったことから、関東方面からのアクセスが格段に向上しました。近年、国内からの旅行客は減少傾向にありますが、中国・韓国・欧米を中心とした外国からの訪問も多く、一年を通して賑わう温泉地です。

当組合は、平湯温泉に立地する旅館により昭和33年9月に設立され、今年で60周年を迎えました。組合設立当初は、主に金融事業を行っていましたが、時代の流れとともに組合事業も変化してきました。現在は、固形燃料や石鹸・シャンプーといった消耗品の共同購買、「平湯温泉宿泊案内所」の運営、浴衣やタオル、シーツ等リネンの取扱幹旋、平湯温泉観光協会と協力して実施する四季折々のイベントやPRキャラバン、観光マップ・ホームページの作成など、多岐にわたる事業を展開しています。

宿泊案内所は、交通の要所・平湯バスターミナルの正面にあり、組合事務局を兼ねています。ここでは、組合員施設の特徴や空き状況を把握した上で宿泊希望者に予約を取り次ぐ業務を行っています。インターネットの普及により電話予約や当日宿泊の問合せは減っていますが、海外からの個人旅行客に道案内などで対応する機会が増えており、平湯温泉の顔としての役割を担い続けています。スキー大会など大きなイベントが開催される折には、宿泊案内所が窓口となって予約を受け付け、団体の方が同じ旅館に宿泊できるような配慮をしています。3年前からは、ふるさと納税の返礼品として、平湯温泉ペア宿泊券の受付も開始しました。

リネン取扱幹旋事業は、リネンのクリーニングを組合で一括して業務委託をするほか、組合オリジナルの浴衣やタオルを共通して使用することで、組合員の経費節減につながっています。この事業を始めて10年ほどですが、今では奥飛騨温泉郷の他組合にも広がっています。

平湯温泉観光協会と協力して実施するイベントは多数ありますが、中でも平湯大滝結氷まつりのライトアップは20年以上続いています。夏のハイシーズンと比較して宿泊客が減少する冬季の集客対策として、当時の若手組合員が中心となり企画したもので、今では平湯温泉を代表するイベントとなっています。また、JR名古屋駅構内でのPR活動や旅行代理店などのエージェンツまわりなども観光協会と協力して行っています。

観光マップやホームページ作成においては、多言語化に取り組み、組合全体で訪日外国人にも楽しんでもらえるような受け入れ体制を推進しています。

こうした組合事業の推進にあたっては、広域的な連携を大切にしており「奥飛騨温泉郷観光協会」「乗鞍誘客対策協議会」「上高地自動車利用適正化協議会」「中部山岳国立公園南部地域利用促進協議会」等への参画、研修会参加や他観光地への視察など、広い視点からこの地域に貢献することを心がけています。



組合で作成する観光マップ

※組合紹介が可能な組合がございましたら、中央会の国際・情報課までお知らせください。

◆組合が目指す方向性とは

今年5月に「ONSEN・ガストロノミーウォーキングin奥飛騨・平湯温泉」が岐阜県内で初めて開催され、組合でも運営の協力をしました。ガストロノミーとは、欧米で普及している“その土地を歩きながら、その土地ならではの食を楽しみ、歴史や文化を知る旅のスタイル”のことで、そこに温泉をプラスしたのが“ONSEN・ガストロノミー”です。平湯大滝や自然探勝路といった地域の豊かな自然に触れあいながら、飛騨牛や地酒などの地元グルメを堪能し、さらに温泉を楽しめるプランは、予想を大幅に上回る参加者があり、大変な好評を博しました。

中村理事長は「近年、旅行の形態とサービスは、大きな転換期を迎えている。“衆”から“個”へ、“見る観光”から“非日常を体験し、心身の健康と癒しや自らの資質向上に資する観光”へと変化を遂げている中、私たち旅館組合も新たな受入れ体制を構築する必要があると考えている。平湯温泉は豊かな自然に恵まれており、ガストロノミーを一例として“自然とタイアップ”した滞在が楽しめる取り組みの強化を提案していきたい。ま

た、組合の役割は、各組合員の繁栄につながることであり、共同宣伝・共同購買・情報提供といった基本的な組合活動をしっかり行うことが肝要だと考える。今後も、若いメンバーの意見を積極的に取り入れながら、事業を推進していきたい」と抱負を語られました。



組合で運営する平湯温泉宿泊案内所
平湯バスターミナルの目の前

～日頃のつながり・備え・学びが地域の財産～

全国の先進組合事例

全国の先進組合事例を収集した「先進組合事例抄録（平成29年度組合資料収集加工事業報告書）」より抜粋して紹介します。

★先進組合事例抄録は、過去のものを含め、全国中央会のホームページ上で「組合事例検索システム」として公開していますので、ぜひご活用ください。「組合事例検索システム」<http://jirei.chuokai.or.jp/newjirei/>

○出前講座・インターンシップ等による新規人材確保

協同組合岡山県土質試験センター

インターンシップ事業による若手人材の確保

- 住所 岡山県岡山市北区津島京町2-8-1
- 電話番号 086-254-6610 ■URL <http://www.okayama-soil.or.jp/>
- 設立 昭和54年3月 ■出資金 10,000千円
- 主な業種 土木建築サービス ■組合員 5人

■背景と目的

社会貢献と組合認知度アップ、高校や大学等との人脈作りが本事業に取り組んだ主な目的である。当初は高校生対象であったが、近年は大学生にシフトしており、若手技術者の確保に向けた取組みとなっている。また、他県の同業組合への波及効果を考えており、インターンシップや職場体験等を通じた人材確保に積極的に取り組んでいる。

■事業・活動の内容と手法

インターンシップ事業は、主に学生（大学生など）が活動できる夏休み期間中に実施している。実施する上での大きなポイントは、岡山県中小企業団体中央会がコーディネートシステムとして利用している「インターンシップ・キャンパスウェブ」の活用である。このシステムは、中央会がインターンシップを希望する学生に対し、大学・学生・企業の3方向への連絡調整やインターンシップ実施状況確認などを行うもので、これに連動して学生に向けたインターンシップ事前研修などの各種支援事業を展開している。

これらの支援活動により、組合でのインターンシップ実施において管理面や安全面を含むインターンシップが実施可能となっており、組合側が安心して事業を実施できる体制が整っている。また、組合では10年以上事業を実施しており、受入カリキュ

ラムの充実と指導スタッフの教育スキル、意思決定体制や実施スキームなど一連の実施フローが確立されており、事務局職員の役割分担を含め、日常業務に支障のない範囲で実施できている。

■成果

インターンシップ事業の継続実施により、県内各大学における認知度が向上しており、事務局での採用活動などと連動して技術職員を2名採用できている。PDCAによるノウハウの蓄積と情報発信による組合員企業等への波及効果があるほか、岡山県中央会による組合の実情を把握したうえでの併走支援が大きなポイントとなっている。



▲インターン①



▲インターン②



◀インターン③

❗事業・活動推進のキーファクター

「インターンシップ・キャンパスウェブ」を活用した取組みと組合内部執行体制の充実のほか、岡山県中央会をはじめとする支援機関等の併走支援がポイント。

組合事務局スキルアップ講座(第2回~5回)を開催

中央会は、組合事務局職員を対象にした「組合事務局スキルアップ講座」を全6回にわたって開催しており、本号では、下記日程により第2回目から第5回目までを行った様子を報告します。

- 第2回 9月21日 組合制度②実務編「こんなときどうする?~組合実務の留意点について~」
- 第3回 10月 5日 組合制度③手続編「法に則した書類を作るために~作成のポイントを伝授します~」
- 第4回 11月 6日 組合会計①ベーシック(初級)編「協同組合会計の原則と決算関係書類の作成」
- 第5回 11月13日 組合会計②アドバンス(上級)編「組合税制について」 <会場:OKBふれあい会館>

第2回目から第5回目では延151人の参加があった。組合制度については、中央会職員が講師となり、理事会・総会の運営や決算関係書類の作成にあたっての留意事項を説明し、間違いやすいポイント等を確認した。組合会計については、税理士の森靖氏を講師に迎え、組合会計の7つの一般原則、会社法と比較した組合の決算関係書類や税制に関する留意事項の説明がされた他、損益計算書などの演習をおこなった。

参加者からは、「自組合の総会資料や議事録の見直しができ、参考になった」「具体的な事例があり、実務に役立つ内容で助かる。企業会計と組合会計の違いがわかってよかった」といった感想が寄せられた。



組合制度は指導課 松浦・細井・墨が担当



組合会計をわかりやすく説明する森税理士

講座内で説明した内容の中から、一部紹介します。ぜひ改めて確認(チェック✓)してみてください。

<総会議事録について>

- 出席組合員数には、委任状出席も含める。
- 役員改選を行った場合の総会議事録の署名者は、定款で任期が延長されている場合は、総会終結時までが旧理事の任期となるので、旧理事となる。
- 総会に監事が出席した場合でも、出席監事の署名又は記名押印は不要。

<理事会議事録について>

- 賛否の別は、理事の氏名を記録することが望ましい。
- 理事会に監事が出席した場合は、出席監事の署名又は記名押印が必要

<事業報告書について>

- 直前3事業年度の財産及び損益の状況は、当該事業年度は含まない。
- 総会の開催状況は、当該事業年度中に開催した総会の状況を記載する。
- 施設の設置状況に、組合の主たる事務所を記載する。

<決算関係書類について>

- 決算関係書類とは、財産目録、貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案又は損失処理案の4点セット。
- 財産目録の資産については、取得価額を付さなければならない。
- 区分表示は、中小企業等協同組合法施行規則により義務付けられている。(例:財産目録「資産」「負債」「正味資産」)

<配当について>

- 事業利用分量配当は、組合事業の手数料、使用料などの過徴額(取りすぎた分)を割戻すという性格があるため、税制上損金算入が認められている。
- 事業利用分量配当は、固定資産の処分による剰余金や員外利用の剰余金から配当することはできない。
- 脱退者は年度末までは組合員であるため脱退年度の配当は受け取ることができる。
- 出資配当は出資に対する利息という趣旨で出資額の1割以内(企業組合は2割以内)で配当するよう制限されている。

※本号14P「中小企業組合検定試験」にもぜひチャレンジしてください。

※スキルアップ講座第6回(最終回)組合運営~活性化編~「活力ある組合に向けて~成功事例から学ぶ~」は、11月28日に開催します。

「就職・転職マッチングフェア」を開催

中央会は、新卒及び一般求職者を対象とした合同企業説明会「就職・転職マッチングフェア」を10月2日にじゅうろくプラザで開催した。

県内に事業所を置く中小企業等44社が出展し、就職希望者110名が企業ブースをまわって熱心に話を聞く様子が見られた。今回初の試みとして、参加対象を新卒に限定せず、一般求職者に広げたこともあり、参加促進のため、事前予約のうえ来場した場合に特典を付与したほか、マッチングの機会を増やすことを目的として5企業以上を訪問した場合にも特典がある取り組みを実施した。また、同日に岐阜県総合人材チャレンジセンターによ

り合同企業説明会の攻略方法をテーマとしたセミナーが開催され、セミナー終了後に引き続き合同企業説明会に参加できるよう連携を図った。

出展企業からは「採用したいと思う人材に出会うことができ、参加してよかった」という声が聞かれた。



企業説明に耳を傾ける参加者

販売力強化支援事業を実施

中央会は、飲食料品関係に限定した組合及びその組合員を対象に、自社商品の特徴を把握・理解するとともに、プレゼンテーション力を高めることで販売力を強化することを目的とした「プレゼン力強化セミナー」を10月3日と11月7日の2回にわたって開催した。

他に誇れる商品がありながらも、対外的なPR力や提案力の不足により具体的な商談まで至らず、販路の拡大に結び付かないという課題に対し、第1回はセールスステップ・販路コーディネーター（協） 販路コーディネーター 小塩稲之理事長を講師に迎え、「プレゼンのコツ」をテーマとしたセミナーを行った。食品関係者7名が参加し、“マネジメントマーケティング”の視点から自社商品の特徴を整理し、PR内容を検討するヒントを得た。

第2回は、小塩理事長と同組合の販路コーディネーター

笠谷圭児氏に対し、2事業者が“プレゼンの実演”を行い、自社商品のPRについてアドバイスを受けた。講師からは、「首都圏に販路拡大する場合には、中部圏向けとアピールポイントが異なってくる」と述べ、具体的なアドバイスがされた。

参加者は「新たなPRの切り口が発見できた。今後のプレゼンで活かしたい」と意気込みを語った。



第2回：自社商品のプレゼンを実演

「地域資源活用研究事業」の経過報告（2年目：第1回～第3回）

中央会では、事業者間による横断的且つ継続的な交流により、3年間の計画で新商品・新技術開発を目指す「地域資源活用研究事業」を昨年度から実施している。2年目となる今年度は全7回の予定で、これまでに視察及び検討会で発掘した「アイデアの種」の具体化を目指しており、新たなメンバーを迎えて、陶磁器、刃物、食品、樹脂、木材、シリコンといった製造加工業とデータサービス業に携わる事業者らが連携による開発に挑む。コーディネーターは、引き続き中小企業診断士の道家睦明氏が担う。

第1回の検討会は、9月18日にテクノプラザで開催し、プロジェクトの進め方や今年度の目標を確認した。

第2回は、10月10日に各務原市で間伐材をチップ化した内装ボードなどを製造する（株）エスウッドを視察した。同社は、未利用資源の活用をテーマに様々な素材を扱っており、平成14年度には中央会の事業をきっかけに、畳店との連携から商品化した成功事例などが紹介された。

第3回は、10月22日にテクノプラザで開催し、県知財総合支援窓口の渡辺氏より「オープンイノベーションと知的財産」をテーマに、知的財産の取り扱いと注意点について講義を受けた。

現在複数の案が進行しており、毎回の検討会において進捗状況の報告及び意見交換を行っている。

今後は、試作開発を本格化し、具体化に向けた検討をすすめる。



第2回：（株）エスウッドの視察と検討会の様子

県中小企業組合士協会が「先進事例視察研修」を実施

県中小企業組合士協会は、10月9・10日の2日間で「先進事例視察研修」を行い、市原敬夫会長をはじめ会員組合士ら6名が参加した。

1日目は、優良組合及び組合員企業の視察として、三重県伊勢市の下野工場団地(協)を訪問。建設業、金属加工業、水産加工業等35社で構成され、団地内の施設管理といった組合事業の紹介があった後、事業承継や人材確保、災害対策などについて情報交換した。また、組合員企業でかまぼこ製造を行う(有)若松屋、炊き込みご飯の素を主力製品とする(株)三水フーズの2工場にて、製造工程や衛生

管理などの説明を受けた。

2日目は、優良中小企業の視察として、同じく組合員である(有)二軒茶屋餅角屋本店を訪れ、茶屋の営業、豆味噌・醤油の製造に加えて、クラフトビールづくりに挑戦し、同工場団地に工場を新設して増産体制を構築した経緯を伺った。

両日を通じて、組合士間の交流を図り、大変有意義な視察研修となった。



下野工場団地(協)組合事務局にて

レディースクラブが「全国フォーラムin宮城」に参加

「平成30年度レディース中央会全国フォーラムin宮城」が10月18日に宮城県仙台市の江陽グランドホテルで開催され、全国の女性経営者や組合女性部等の関係者ら約250名が参加した。本会レディースクラブからは4人が参加し、全国の女性経営者らと交流を深めた。

基調講演では、(株)morichi 代表取締役 森本千賀子氏より「人生を楽しむハッピーキャリアの法則」をテーマとした講演が行われた。続いて分科会では、オリエンテーションとして「組合女性部、女性の活躍に向けた方策」と題してGROW by GLOW(株)代表取締役 有馬朱美氏より

講演が行われた後、3つのグループに分かれて事例発表及び参加者間による活発な討議を行った。

その後の交流パーティーでは、祝いの舞「平成萬歳」の披露や仙台すずめ踊りなどのアトラクションが催され、会場は大いに盛り上がりを見せた。翌日にはエクスカージョンも企画され、参加者は充実した2日間を過ごした。



交流パーティーにて

県青年中央会が「視察研修事業」開催・「組合青年部全国講習会」に参加

県青年中央会は10月22日に「視察研修事業」を行い、郡上市美並町で県内最大級のドローン施設を運営する(株)ROBOZを会員12名が訪問した。代表取締役 石田宏樹氏より、会社説明の後、ドローンが農林業や運輸業、鉱業、セキュリティ分野など様々な産業で活用されている事例が紹介された。また、屋内外の飛行場に移動し、ドローンの飛行見学及び操縦体験を行った。参加者からは「実際に操作をしてみて自社の事業分野でも活用するイメージを持てた」といった感想が聞かれた。

また、11月9日に「平成30年度組合青年部全国講習会」が栃木県宇都宮市のホテル東日本宇都宮で開催され、全国の青年部から約250名が集い、県青年中央会からは林繁良会長ら3名が参加した。講習会の第一部は、宇

都宮大学 地域創生推進機構 教授 佐々木英和氏が「ビジネスマッチングをすすめるためのコミュニケーション術」をテーマに講習を行った後、グループに分かれて参加者各社の強みを活かした新事業を検討するワークショップが開催された。第二部は、日光殿堂案内協同組合 理事長春日武之氏が「『堂者引き』の歴史と先人たちの遺訓～その考察」をテーマに講演。続いて開催された交流懇親会では、参加者同士が情報交換を行い親睦を深めた。



視察事業：ドローンの操縦体験

県に対し官公需に関する5項目を要望

中央会並びに中央会の部会である岐阜県建設関連業団体部会は、10月22日に県庁を訪れ、県土整備部、都市建築部、商工労働部に対し「地元業者の優先活用と分離・分割発注の推進」や「適正な工期の設定」など県の官公需に関する5項目の要望を行った。

同部会では、毎年「官公需フォーラム」を開催して県担当部局との懇談会を実施している。このフォーラムに先立ち、事前に37組合等の会員から寄せられた意見を取りまとめて要望活動を行っている。

当日は荒川晶一部会長と副部会長5人らが、宗宮県土整備部長、船坂都市建築部長、鈴木都市公園整備局長、井川商工労働部長に面談し、初めに荒川部会長より要望書の要旨を説明し、続いて副部会長より県内建設関連業界の現状等を報告した。



左から宗宮県土整備部長・荒川部会長

組合等活動

東濃 秋のイベントを各地で開催

東濃各地で、毎年恒例となっている秋の新作展示会や窯元めぐりなどのイベントが開催された。

新作展示会では、岐阜県陶磁器工業（協連）傘下の窯元等により新たに開発した製品85点が出品され、優秀作品の選定・表彰が行われた。グランプリの中小企業庁長官賞に、昭和製陶(株)(土岐市駄知町)の「櫛麴蕎麦揃え」、県中

央会長賞には窯元荒神窯(土岐市下石町)の「炭火焼コンロ」が選ばれた。出品作品は引き続き展示され、来場者にアンケート調査を実施し、今後の製品開発に活かされる。

各地のイベントでは、窯元めぐりや廉売市、陶器のランプシェードによる幻想的な景色など、毎年楽しみにしているという来場者も多く、どの催しも大変な賑わいであった。

10月6・7日	市之倉陶磁器工業(協)「陶の里フェスティバルIN市之倉2018」 廉売市、窯元めぐり
10月7・8日	多治見美濃焼卸センター(協)「第41回たじみ茶碗まつり」 廉売市、各店舗の蔵出しセール
10月13~15日	岐阜県陶磁器工業(協連)「2018美濃焼新作展示会」 新製品の展示、優秀作品の表彰
10月 20日	土岐津陶磁器工業(協)「第14回あかりのタベ」 陶器のランプシェードによる幻想的な灯り
11月3・4日	下石陶磁器工業(協)「第22回下石どえらあええ陶器まつり」 窯元もろ板陶器市、窯元めぐり
11月 3日	岐阜県花崗岩販売(協)「第28回石彫のついで」オープニングセレモニー 地区内のウォーキングマップ 石の彫刻を制作



美濃焼新作展
中央会長賞「炭火焼コンロ」



大勢の人で賑わうたじみ茶碗まつり

産官学連携による東濃ひのきを使った商品「つみマスくみマス」が好評!

東濃ひのき製品流通協同組合(田口房国理事長)

東濃ひのき製品流通(協)組合員である(株)トーホーと白川町、(株)テイコク、大同大学の産官学連携により商品化した積み木「つみマスくみマス」が好評だ。

白川町には「木」にまつわる一連の産業・施設が揃う。町は、森林組合に加えて、優良原木を取り扱う「東濃ヒノキ白川市場(協)」、東濃ひのきを用いた家づくりを行う「東濃ひのきと白川の家建築(協)」、木材流通加工の拠点でバイオマス発電等で担う「東濃ひのき製品流通(協)」らと一体となり、東濃ひのきの魅力向上と高付加価値化による販路拡大を目指した取り組みを行っている。その一環として、平成28年度から大同大学情報学部と連携した商品開発をすすめてきた。ニーズ調査等を経て提案された試作品22点の中からポケットティッシュBOX、ネクタイピン、積み木の3点について商品化が決定した。

そのうち、積み木「つみマスくみマス」は既に販売を開始しており、人気を博している。(株)トーホーの開発担当者は「組み合わせで様々な遊び方ができる。ひのき特有の香りや手触りも楽しんでほしい」と話した。今後もこの取り組みは継続される予定で、新たな商品開発が期待される。



東濃ひのきの積み木「つみマスくみマス」

豪雨災害の廃棄物処理で県知事より感謝状贈呈

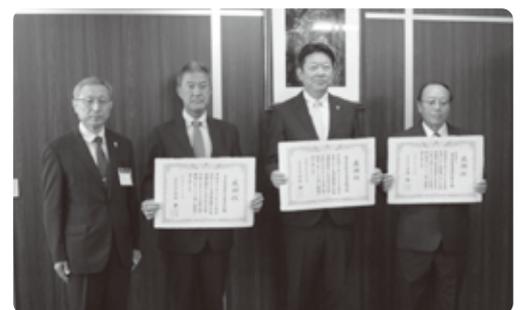
岐阜県環境整備事業協同組合(牧野好晃理事長)・岐阜県清掃事業協同組合(林和幸理事長)

平成30年7月の豪雨災害において、災害廃棄物の運搬や分別業務等を支援し、災害復旧活動に貢献したとして、岐阜県環境整備事業(協)、岐阜県清掃事業(協)、(一社)岐阜県産業環境保全協会の三団体に対し、知事感謝状が贈呈された。

三団体は、岐阜県と災害時の廃棄物処理に協力する協定を締結しており、この度の被災状況を受け、関市・下呂市・海津市の災害廃棄物や汚水の収集運搬、分別作業を無償で担った。

贈呈式は、11月5日に岐阜県庁にて行われ、石原佳洋環境生活部長から謝辞が述べられた後、各理事長に感謝状が

手渡された。理事長らは豪雨後に猛暑が続いたことから「事故や熱中症に細心の注意を払った」と振り返った。



左2番目より牧野理事長、林理事長

組合設立40周年記念式典を開催

岐阜県中古自動車販売商工組合（岩瀬晃彦理事長）

岐阜県中古自動車販売（商工）は、10月19日、岐阜都ホテルにおいて「設立40周年記念式典」を開催した。来賓や組合員など約350名が出席し、組合と組合員のさらなる発展を誓った。

当組合は、「JU岐阜」の愛称で親しまれる岐阜県内の中古自動車販売店451社で組織し、確かな品質の中古車を消費者に提供するなど、県内中古車流通の活性化を目的とした活動を幅広く行っている。早くから中古車オークションの電子化に取り組み、組合が出資する（株）JU岐阜羽島オートオークションは全国でも屈指の規模を誇る。近年では「中古自動車販売士」と「JU適正販売店」の拡大に取り組み、業界

の健全な発展に寄与している。

式典の開会にあたり岩瀬理事長は「40周年を通過点として捉え、次の新たな周年に向け、若い世代に伝えていくことが使命だ。しっかりと前に進んでいこう」とあいさつし、続いて組合功労者等への表彰が行われた。また、式典後には懇親パーティーが華やかに催され、業界の歴史を振り返りながら、盛大に節目を祝った。



表彰の様子 左から3番目：岩瀬理事長

ものづくり岐阜テクノフェア2018開催 組合も出展

川崎岐阜協同組合事業振興部会（井納誠部会長）・岐阜県プラスチック工業組合青年部（武藤修平部長）・岐阜県鋳物工業協同組合（丹羽龍理事長）

世界に誇る技術や製品・研究成果などを紹介し「ものづくり」の魅力を発信するイベント「ものづくり岐阜テクノフェア2018」が10月19・20日の2日間、大垣市総合体育館で開催され、岐阜県内外の企業・大学・研究機関等100ブースが並んだ。岐阜県工業会の主催で、大垣市制100周年事業「おおがき未来フェスティバル」「岐阜大学産学連携フェア」と同時開催された。

多数の組合所属企業やものづくり補助金活用企業が出展した中、組合としては、川崎岐阜（協）事業振興部会が部会企業の紹介をしたほか、岐阜県プラスチック（工組）青年部が下石陶磁器工業（協）異業種交流会と連携して開発したプラスチック×陶磁器の製品を展示し、プラスチック製品の新たな可能性を紹介した。

開催2日目には、小中学生を対象としたものづくり体験コーナー

が設けられ、岐阜県鋳物工業（協）が（公財）岐阜鋳物会館と共催で、金属を型に流し入れてメダルをつくる「鋳物キャラクター」工作教室を開き、鋳物製造の工程を体験した子どもたちが嬉しそうにメダルを持ち帰る様子が見られた。

県プラスチック（工組）の武藤青年部長は「多くの方に組合青年部の取り組みを紹介する良い機会となった。異なる業種と連携した企画など、これからも新しい試みが続けていきたい」と意欲を語った。



川崎岐阜（協）事業振興部会



岐阜県プラスチック（工組）青年部



岐阜県鋳物工業（協）工作教室

シンガポールの日本食展示会「Food Japan2018」に出展

駄知小売商業協同組合（中島善二理事長）

駄知小売商業（協）は、10月25日から27日の3日間、シンガポール・サンテックシンガポールで開催された「Food Japan 2018」に出展した。この展示会は、ASEAN市場最大級の日本の食に特化した見本市で、日本の食品、飲料、食器や調理器具等の食に関連した企業280社が出展し、レストランやホテル、スーパー等のバイヤーとの商談だけでなく、最終日は一般消費者に直接販売した。期間中は約11,000人の来場があった。

当組合で海外の展示会に出展するのは初めて。組合員である土岐市駄知町の食品関連企業が中心となり、岐阜県産のお酒、ワイン、加工食品、お茶、お米などを持ち込み、販路や商品の求評を実施した。出展にあたっては、全国中央会の

中小企業活路開拓調査・実現化事業（中小企業組合等活路開拓事業）を活用した。

組合の事業担当者は「岐阜県産の食品類は、現地でも評価が高く、特に日本酒の関心が高かった。今後につながるよう出展後のフォローを大切にしたい。国内の消費が落ち込む中、今回の海外への販路開拓といった新たな取り組みにより、組合活性化につながることを期待している」と意欲を語った。



出展ブースの様子

「東海・北陸 地域ブランド総選挙」に2組合がエントリー

協同組合飛騨木工連合会(白川勝規理事長)・美濃和紙ブランド協同組合(辻守重理事長)

特許庁及び中部経済産業局は、“地域団体商標制度”の更なる普及・利用促進に向けて、「東海・北陸 地域ブランド総選挙」を実施しており、(協)飛騨木工連合会と美濃和紙ブランド(協)をはじめ7県から18団体がエントリーしている。

同選挙は、地元の大学生が地域団体商標を取得した団体を取材し、その魅力を「Instagram(インスタグラム)」で発信するとともに、新商品や新ビジネスのアイデアを検討するもので、発信内容や「いいね!」の数、新商品や新ビジネスのアイデア等をもとにした審査により、決勝に進む参加団体と大学生によるチームが決定。12月12日に名古屋国際センターで開催される決勝戦には10チーム程度が進み、各チームがプレゼンテーションを行って各賞が決定する。

両組合へは岐阜大学の学生で結成した「高やーまチーム」と「美濃わーしチーム」が8月上旬頃より取材を開始し、

9月3日からInstagramで情報発信を行っており、学生達の目線から地域団体商標「飛騨の家具／飛騨・高山の家具」と「美濃和紙」の魅力を伝えている。

是非、一度Instagramのページをご覧ください。



【飛騨の家具@東海・北陸地域ブランド総選挙】
(<https://www.instagram.com/hidanokagu0903/>)



【美濃和紙@東海北陸地域ブランド総選挙】
(<https://www.instagram.com/minowashi0903/>)

(株)デザインラボ苅谷社長がカーラッピング世界大会で優勝&MVP

岐阜県広告美術業協同組合(尾藤正文理事長)

岐阜県広告美術業(協)の組合員「(株)デザインラボ」は、新たな事業分野として車のラッピング事業を展開している。カーラッピング技術を競う大会「Wrapcon2018 Wrap Olympics」が8月に米国で開催され、苅谷伊社長が2人1組のチームを組んで出場した「チームSAMURAI」が見事優勝を果たし、苅谷社長がMVPに選ばれた。

同大会は10年程前から開催されており、昨年の4位からの躍進となった。アジアからの参加者が優勝・MVPを獲得したのは初めてとのこと、その快挙に日本のカーラッピング業界も盛り上がりを見せている。

苅谷社長は、同組合の青年部長を務めていた平成23・24年度に、部員らが新しいビジネス形態を学ぶ必要があると考え、中央会の支援事業を活用して「自動車ラッピング技

術の習得」をテーマに研修会を企画したこともあるなど、当時から新しい分野への挑戦を声高にして部員らを励まし、業界発展の牽引役を担ってきた。

苅谷社長は「以前は都市部の富裕層からの注文が多かったが、車のラッピングにより個性やオリジナリティが発揮できる点に魅力を感じ、近年は客層も変化してきている。ニーズは増えてきているので、今後も技術力を高めて更なる事業拡大を図りたい」と意気込みを語った。



トロフィーを掲げる苅谷社長(左)

バイクの魅力発信をテーマに研修会を開催

岐阜オートバイ事業協同組合(兒玉健理事長)

岐阜県オートバイ事業(協)は、中央会の「組合等活動支援事業」を活用し、10月15日に岐阜グランドホテルで研修会を開催した。

創立10周年を機に毎年秋に組合員等を対象とした研修会と親睦を図る地域振興交流会を開催している。そこで、4回目を数えた今回は、厳しい環境下でも売上を伸ばしている(株)オーヴァーホールディングズの佐藤健正社長を講師とし、「高齢者のバイク帰帰&若年者への魅力発信について考える」をテーマに新規需要の創造について研修した。

佐藤社長からは、業界の動向を細かく分析し、そこから見えてくる将来に対応した同社の中期計画が示され、それを基に経営者と社員が目的達成のために一丸となって進む秘訣やオートバイの魅力为谁にどう発信していくかについてア

ドバイスがあった。

研修を終えて兒玉理事長は「バイクに憧れを抱く潜在層は多いが、免許を取得し、購入するまでに至るケースは少数である。組合員が高齢化し、後継者もいないといったお店が増えていく中で、各地域において組合員がこうした潜在層にどうバイクの魅力伝えていくかを考える機会となった。地道に出来ることから始めていかなければ業界の将来はないと改めて感じた」と感想を述べた。



説明に耳を傾ける参加者



景況レポート

平成30年
10月末調査
(前年同月比)

中小企業団体情報連絡員70名
の情報連絡票から

〔I〕10月の特色

- ◆景況感DI値マイナス21
～前月比6ポイントの改善～
- ◆雇用人員DI値を除く全主要調査項目DI値が改善
- ◆人手不足による悪影響と労働力の確保に苦慮

〔II〕10月の概況

当月の景気動向を前年同月比の景況感DI値で見ると、好転1、悪化22で、DI値はマイナス21となり、前月のDI値マイナス27に対し、6ポイントの改善となった。

業種別の景気動向を前年同月比の景況感DI値で見ると、製造業のDI値はマイナス22となり、前月比で6ポイントの改善、非製造業のDI値はマイナス21となり、前月比で5ポイントの改善となった。

なお、回答のあった70業種のうち、前年同月比で景況感が「好転」と回答した業種は、電設資材卸の1業種(前月比±0業種)。

また、「悪化」と回答した業種は16業種(前月比-4業種)となっている。

主要な調査項目を見ていくと、売上高DI値はマイナス14で前月比9ポイントの改善、販売価格DI値は2で前月比8ポイントの改善、収益状況DI値はマイナス30で前月比5ポイントの改善、資金繰りDI値はマイナス9で前月比4ポイントの改善、雇用人員DI値はマイナス6で前月比3ポイントの悪化となった。

コメントを見ると、製造業では、「2012年度11月からの輸出面における日本経済の回復基調の中で、為替の安定と米国の景気動向に支えられ、刃物の輸出はヨーロッパを含め概ね順調に推移している。(金属製品(輸出))」、「設備を増強して生産を上げる方向に向いている状態である。世界情勢の不安要素は有るがしばらくはこの状態が続くと思われる。(メッキ)」などプラスの内容が報告された一方で、「天候要因が影響し売上高が低迷している。秋物の消費も悪化し、冬物への影響も懸念している。また、デフレの影響もあるかと考えられる。(婦人子供服)」などマイナスの内容が報告された。

非製造業では、「企業の事務所・工場などの新築やリニューアルを始めとする設備投資が増加している。(電設資材)」などプラスの内容が報告された一方で、「需要期に入っても好況感はない。売上高は、2年前・3年前と比較するとそれぞれ93.6%・88.9%となることから厳しい状況であることが見て取れる。(陶磁器卸)」などマイナスの内容が報告された。

また、「下請け事業所の減少や人手不足から増産が難しく、成約が困難なケースも生じている。(金属製品(輸出))」、「ドライバー不足のために受注できない案件数が増加している。(貨物運送(岐阜地区))」、「人材については、中途採用で日本人、外国人を問わず増やしているが、定着率が良くない。(鋳物)」など労働力の確保に苦慮する内容が報告された。

<主な調査項目での動向>

売上高の動向は、前年同月比で増加18、減少32でDI値はマイナス14となり、前月のマイナス23に対し、9ポイントの改善となった。

売上高が増加した業種は13業種(前月比+4業種)あり、縫製(既製服)、銘木、東濃ひのき、機械すき、和紙、砂利生産、碎石生産、メッキ、可児工業団地、電設資材卸、機械・工具販売、青果販売、生花販売、広告美術である。

売上高が減少した業種は23業種(前月比-2業種)あり、特にサービス業・建設業の区分で多かった。

販売価格の動向は、前年同月比で上昇12、低下10でDI値は2となり、前月のマイナス6に対し、8ポイントの改善となった。

販売価格が上昇した業種は9業種(前月比+3業種)あり、毛織物、縫製(既製服)、銘木、東濃ひのき、特殊紙、青果販売、石油製品販売、生花販売、貨物運送(県域)である。

販売価格が低下した業種は7業種(前月比-3業種)あり、特に商店街の区分で多かった。

収益状況の動向は、前年同月比で好転5、悪化35でDI値はマイナス30となり、前月のマイナス35に対し、

5ポイントの改善となった。

収益状況が好転した業種は4業種(前月比±0業種)あり、縫製(既製服)、銘木、メッキ、広告美術である。

収益状況が悪化した業種は25業種(前月比-3業種)あり、特に窯業・土石、卸売業、商店街、サービス業、運輸業の区分で多かった。

資金繰りの動向は、前年同月比で好転1、悪化10でDI値はマイナス9となり、前月のマイナス13に対し、4ポイントの改善となった。

資金繰りが好転した業種は1業種(前月比±0業種)あり、可児工業団地である。

資金繰りが悪化した業種は7業種(前月比-3業種)であった。

雇用人員の動向は、前年同月比で好転4、悪化10でDI値はマイナス6となり、前月のマイナス3に対し、3ポイントの悪化となった。

雇用人員が増加した業種は3業種(前月比+1業種)あり、縫製(既製服)、鋳物、可児工業団地である。

雇用人員が減少した業種は7業種(前月比+1業種)であった。



県内中小企業

(10月末調査)

主要業種の景気動向

製 造 業		前年同月比						
区 分	業 種	調査項目	売上高	販売価格	収益状況	資金繰り	雇用人員	景況感
食 料 品	牛 乳		△	△	△	△	△	△
	食 肉 (国 産)		△	△	△	△	△	△
	菓 子		▲	△	▲	△	△	▲
	米 菓		△	△	△	△	△	△
	製 麵		△	△	△	△	△	△
織 維 ・ 同 製 品	撚 糸		△	△	△	△	△	△
	ニ ッ ト 工 業		△	△	△	△	△	△
	毛 織 物		△	○	△	△	△	△
	合 成 織 維 織 物		△	△	△	△	△	△
	メ ン ズ ア パ レ ル		▲	△	△	△	△	△
木 材 ・ 木 製 品	製 材		△	△	△	△	△	△
	銘 木		○	○	○	△	△	△
	家 具		△	△	▲	△	△	△
紙 紙 加 工 品	機 械 す き 和 紙		○	△	△	△	▲	▲
	特 殊 紙		▲	○	▲	▲	△	▲
	紙 加 工 品		△	△	△	△	△	△
印刷	印 刷		△	△	▲	▲	△	△
化学ゴム	プ ラ ス チ ッ ク		△	△	▲	△	△	△
窯 業 ・ 土 石	陶 磁 器 (工 業)		△	△	▲	▲	△	▲
	タ イ ル		▲	△	▲	△	△	▲
	窯 業 原 料		▲	△	▲	△	△	△
	石 灰		▲	▲	▲	△	△	▲
	生 コ ン ク リ ー ト		△	△	△	△	△	△
	砂 利 生 産		○	△	△	△	△	△
鉄 鋼 ・ 金 属	碎 石 生 産		○	△	△	△	△	△
	鑄 物		▲	△	△	△	○	▲
	刃 物 等 金 属 製 品 (輸 出)		△	△	△	△	△	△
	刃 物 等 金 属 製 品 (内 需)		△	△	△	△	△	△
一 般 機 械	メ ッ キ		○	△	○	△	△	△
	県 金 属 工 業 団 地		▲	△	△	△	△	△
	可 児 工 業 団 地		○	△	△	○	○	△
輸 送 用 機 器	金 型		△	△	△	△	△	△
	輸 送 用 機 器		△	△	▲	△	△	△

非 製 造 業		前年同月比						
区 分	業 種	調査項目	売上高	販売価格	収益状況	資金繰り	雇用人員	景況感
卸 売 業	電 設 資 材 卸		○	△	△	△	△	○
	陶 磁 器 産 地 卸		▲	△	▲	△	△	▲
	機 械 ・ 工 具 販 売		○	▲	▲	△	△	△
小 売 業	青 果 販 売		○	○	△	△	△	△
	水 産 物 商 業		▲	△	▲	△	△	▲
	家 電 機 器 販 売		△	△	△	△	△	△
	メ ガ ネ 販 売		△	△	△	△	△	△
	中 古 自 動 車 販 売		△	▲	△	△	▲	△
	石 油 製 品 販 売		▲	○	△	△	▲	△
	共 同 店 舗 (飛 騨)		▲	△	△	△	△	△
	生 花 販 売		○	○	△	△	▲	△
商 店 街	岐 阜 市 商 店 街		▲	▲	▲	△	△	▲
	大 垣 市 商 店 街		△	▲	▲	△	▲	▲
	高 山 市 商 店 街		△	△	△	△	△	△
サ ー ビ ス 業	自 動 車 車 体 整 備		△	△	△	△	△	▲
	長 良 川 畔 旅 館		△	△	▲	▲	△	△
	下 呂 温 泉 旅 館		▲	△	▲	▲	△	▲
	高 山 旅 館		▲	△	▲	△	△	▲
	ク リ ー ニ ン グ		△	△	▲	△	△	△
	広 告 美 術		○	△	○	△	△	△
	旅 行 業		▲	△	▲	△	△	△
	理 容 ・ 美 容 業		▲	△	△	△	△	△
建 設 業	土 木 (岐 阜 地 区)		▲	△	△	△	△	△
	土 木 (飛 騨 地 区)		▲	△	△	△	△	△
	建 築 設 計		▲	▲	▲	▲	△	▲
	鉄 構 造 物		△	△	△	△	△	△
	電 気 工 事		▲	△	△	△	▲	△
	管 設 備 工 事		△	△	△	△	△	△
	建 築 板 金		△	△	△	△	△	△
	室 内 装 飾		△	△	△	△	△	△
運 輸 業	木 造 建 築		▲	△	▲	△	△	△
	貨 物 運 送 (県 域)		△	○	▲	△	▲	△
	軽 運 送		▲	△	▲	△	△	△
其 他 の 非 製 造 業	貸 植 木 業		△	▲	△	▲	△	△

凡 例 ○：[増加]、[上昇]、[好転]
 △：[不変]
 ▲：[減少]、[下降]、[悪化]



©岐阜県 清流の国
ぎふ・ミナモト0682

組合事務局 キラキラ職員レター

組合事務局でキラキラと働いている職員の方を、キラキラした川の水面に住む妖精「ミナモ」が紹介するコーナーです。さわやかな川の流れのように、人々が出会い、絆を深めるきっかけとなることを願っています。



鍵谷 ゆみ子さん

**岐阜県木材協同組合
連合会**
(岐阜市六条江東2-5-6)
<http://www.gifu-mokuzai.jp/>

長年、一級建築士として建築の仕事に携わり、木材をたくさん使用した家も、そうでない家も、たくさん見てきた中で、木は人にやすらぎを与える日本古来の素晴らしい材料であることを感じていました。もっと“木の良さを伝える仕事がしたい”という気持ちが芽生え、岐阜県産の木材普及を図る組合の取り組みに魅力を感じ、昨年からは組合職員として働いています。

組合事業は、木材の利用促進に関して、木の家のPR、木造で大空間を実現する施工方法等の技術開発・講習、官公庁への要望書提出、山の保全、組合員の経営支援など多岐に亘ります。製材だけでなく、その源となる林業、山全体、自然…と、視点が広がり、おもしろさを感じています。

「まずは何でもやってみる」をモットーに、忙しく過ごす日々ですが、休日はペットの猫に癒されています。

これからも県産木材を優先して活用する社会「ぎふの木ウッドファースト社会」を目指して頑張っていきます!!



正村 敬子さん

多治見陶磁器卸商業協同組合
(多治見市明治町2丁目4番地)
<http://www.tatosho.com/>

以前は組合と同じビル内にある別の企業で働いており、その頃に知り合った鈴木前理事長と齋藤専務理事からお声がけいただき、組合で働き始めて5年になります。

組合では、陶磁器に関わる資材販売やイベント開催など様々な事業を行っていますが、中でも毎年4月に開催する「たじみ陶器まつり」に力を入れており、私もたくさんの方にきてもらいたいという思いをこめて準備をしています。

「気持ちよく来ていただける組合であること」を心がけ、組合員さんからのご要望やお問い合わせに迅速に対応するよう努めています。皆さん優しい方ばかりで、いつも声をかけていただき感謝しています。

休日は主人と登山、ロードバイク、マラソンなどを楽しみ、週3回はジムで体づくりもしています。

おすすめはオリベストリートの「陶都創造館」です。組合員さんが扱う素敵な陶磁器がずらりと並び、陶器商の歴史紹介もあります。ぜひお立ち寄りください♪

● 組合士の問題に挑戦! ●

中小企業組合検定は、組合事務局で働く役員が職務を遂行する上で必要な知識に関する試験で、「組合会計」「組合制度」「組合運営」の3科目があります。試験に合格し実務経験を持つ方に、中小企業組合士(通称「組合士」)の称号を与える制度で、毎年12月の第1日曜日に実施しています。
(主催:全国中小企業団体中央会 後援:中小企業庁 協力:都道府県中小企業団体中央会)

「中小企業組合検定」の過去問と解答を掲載します。日ごろの組合運営の参考にさせていただくとともに、ぜひ検定にもチャレンジしてください。
平成29年度「組合会計」より抜粋

問 中小企業等協同組合会計基準に示されている「継続性の原則」について、200字以内で記述しなさい。

答(解答例) その処理の原則及び手続きを每期継続して適用し、みだりにこれを変更してはならないことを要請する原則である。この原則が要請されるのは、経営者による利益操作を排除し、期間比較を確保することにある。ただし正当な理由がある場合には、変更が認められる。正当な理由には、会計基準の変更によりこれまで適用していた処理の原則や手続きを適用することができなくなった場合などが挙げられる。この原則は、表示についても要請される。

職員レポート

中央会職員が日々の仕事や生活を行う中で感じていることなどを綴る「職員レポート」。第24回は中央会事務局の“要”、森瀬課長に筆を執っていただきました。



上司からの教え

指導課 課長 森瀬 融

いつもお世話になっております。指導課の森瀬です。

本会に入職して、はや25年。小学校、中学校、高校あたりまではあんなに長かった1年が今はものすごく早く過ぎていきます。「1年が早く過ぎるのはトキメキがなくなったから」とチョコちゃんと言っていました。(NHK「チョコちゃんに叱られる」のチョコちゃんです。)トキメキって言葉すら身に覚えがないほど年齢を重ねてしまいました。

入職したての頃は、目の前の黒電話が鳴るのが怖くて電話が鳴るとオドオドしてしまい、結果的に先輩方が電話に出てもらうという日々が何日も続いたのを覚えています。

自分の机の上には「中小企業等協同組合法及び中小企業団体に関する法律の解説」など法律の本が山積みされ、ひたすら本を読むのが日課でした。仕事と言えば、上司が作った手書き原稿のワープロ打ち(当時はワープロが2台しかなかったですし、上司の解読不能な文字を読む力が付きました。)、会員様向けの文書や資料の印刷から発送までといった内容でした。近年入職した本会職員は直ぐに現場でバリバリ仕事をするので今の若い職員との仕事ぶりには差を感じ、すごいなぁと感心しています。そんな中、入職したての頃、会員組合様への発送は1,000件程あり、複数人で1日かかっていたのですが、先輩方は忙しそうだし1人でやっせようと思え、段取りよく早く正確にきれいにとこだわって作業をしていました。どうやったら早く、どうやったらきれいに、どうやったら正確にということを考えながら、1人できれいに正確にやり切れたときは、そんなことでも達成感がありました。若いころはそんな毎日を過ごしていました。今でもこの作業は本会内の誰にも負けないと思います。

自分には過去の配属先に特徴があると思っています。新たに新設された課や新たな事業に取り組ませていただいたことが多いのです。若いころは岐阜県で開催した全国大会などを担当した企画管理課、最近では国際チーム、政策推進課と今では存在しない課も発足時に経験しました。事業では農商工連携人材育成事業やものづくり補助金の立ち上げ時に担当していました。他にも数々の新たな業務に取り組んできました。人と違うこと

がやりたいと考える自分にとっては、過去に誰も経験がない新しい取り組みは、大変ですが同時にやりがいもあり、そうした取り組みに関わってこられたことは自分の僅かながらの成長につながっていると思います。そして現在所属の指導課も課として立ち上げられた当初に所属し、昨年度出戻ってきました。

さて、前置きが長くなりましたが、タイトルに挙げました上司からの教えについてです。数多くの上司のもと仕事をしてきましたが、今自分の中に根付く教えがいくつかあります。その中の一つをご紹介しますと思います。

それは、自分の立ち位置を知るといえるものです。自分の立場、役割＝立ち位置、言いかえれば原点に戻れといえるものです。この教えを受けてから、どんな事案も進行形で進んでいるものですが、そんな中でも立ち止まって多方面から物事を考え、最後には自分の立ち位置でどう判断するかを心掛けるようになりました。立ち位置を明確にすることで考えることがシンプルになり、判断もしやすくなったように思います。立ち位置が右往左往した状態ではいい判断ができないと思いますし、事案によっては立ち位置以上に他の考えを尊重しなければいけない場面もありますが、立ち位置が明確になっているからこそ他の考え方も明確になり、その考えにのめり込みすぎず判断することができます。以前は、そんなこと考えずその場その場の判断で対応していたように思います。そのため、事案によっては判断が異なることがあったかもしれませんが、どういった場面でも同じ判断ができるようになるのが理想です。そのためにも、大変難しいことですが、立ち位置を明確にして冷静にブレない判断ができるようになりたいと思います。

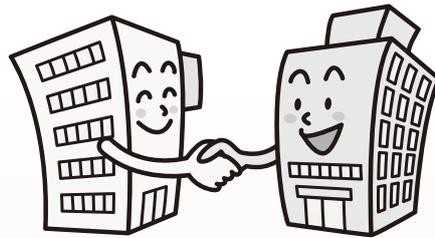
何歳まで本会に居られるかわかりませんが、引き続き過去に頂いた教えを大切に仕事に努めたいと思います。



人材移動の お手伝いをします

こんな場合は
ご相談ください

従業員に
余剰感がある



経験豊富な
即戦力人材が
ほしい

利用のメリット

- ① センター独自の人材情報
- ② きめ細やかな対応
- ③ ハローワーク等と併用可

お問い合わせ先

 公益財団法人
産業雇用安定センター

岐阜事務所

〒500-8163

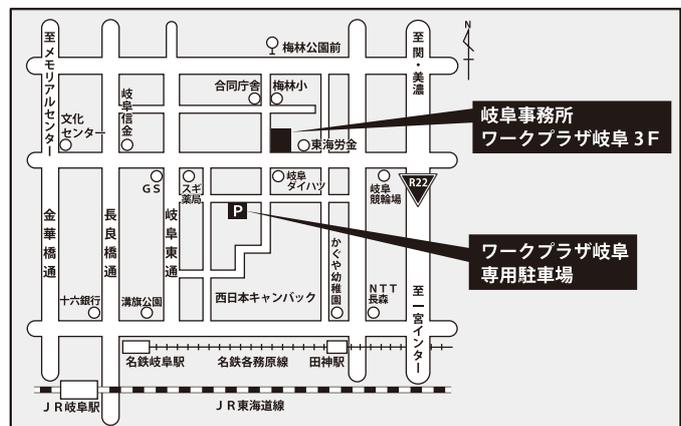
岐阜県岐阜市鶴舞町 2-6-7

ワークプラザ岐阜 3F

TEL: 058-246-7060

FAX: 058-246-7062

<http://www.sangyokoyo.or.jp/>



ご利用時間 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝は休業)



秋の叙勲・褒章の表彰

2018年『秋の叙勲・褒章』について、11月2日に褒章、3日に叙勲の受章者がそれぞれ発表されました。中央会関係者の方々は以下のとおりです。

- 叙勲** 【旭日小綬章】 日比野 豊 氏＝岐阜県商店街振興組合連合会・理事長(本会 理事)
【旭日双光章】 林 一成 氏＝岐阜県医薬品卸協同組合・元理事長

「ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金（2次公募）」採択結果の発表

国の平成29年度補正予算で措置された「ものづくり・商業・サービス経営力向上支援補助金（2次公募）」については、平成30年8月3日から9月18日（北海道厚真町、安平町、むかわ町は、10月1日（月）まで延長）までの期間において公募が行われ、その採択結果が10月29日に発表されました。

全国で6,355者の応募があり、地域採択審査委員会及び全国採択審査委員会において厳正な審査が行われた結果、2,471者を採択することとし、本県からは58者が採択されました。

来年4月から年次有給休暇の時季指定による取得が義務化されます

労働基準法では、労働者の心身のリフレッシュを図ることを目的として、一定要件を満たす労働者に対し、毎年一定日数の年次有給休暇を与えることを規定しています。年次有給休暇は、原則として、労働者が請求する時季に与えることとされていますが、職場への配慮やためらい等の理由から取得率が低調な現状にあり、年次有給休暇の取得促進が課題となっています。

このため、今般、労働基準法が改正され、2019（平成31）年4月から全ての企業において、年10日以上年次有給休暇が付与される労働者に対して、年次有給休暇の日数のうち年5日については、使用者が時季を指定して取得させることが必要となりました。

詳しくは、厚生労働省のリーフレット（<https://www.mhlw.go.jp/content/000350327.pdf>）をご覧ください。また、ご不明な点などがある場合は、岐阜労働局又はお近くの労働基準監督署までお尋ねください。

中央会日誌

<9月21日～30日>

- 25日 ぎふ働き方改革推進協議会（グランヴェール岐山）
- 東海北陸ブロック共済会議（金沢東急ホテル）

<10月1日～31日>

- 3・15日 岐阜県航空機・同附属品製造業最低賃金専門部会（岐阜合同庁舎）
- 10日 清流の国ぎふ女性の活躍推進会議（岐阜県庁）
- 19日 岐阜地方最低賃金審議会（岐阜合同庁舎）
- 岐阜県中古自動車販売（商工）設立40周年記念式典（岐阜都ホテル）
- 22日 岐阜県地域訓練協議会（岐阜県庁）

<11月1日～20日>

- 5日 東海・北陸ブロック中央会会長会議（ANAクラウンプラザホテル富山）
- 7日 岐阜地方最低賃金審議会（岐阜合同庁舎）
- 12日 岐阜地方労働審議会



●G-Club(ぎふものづくり連携倶楽部)からのお知らせ

G-Clubのホームページが開設しました! [<https://g-club.gifu.jp/>]



ものづくり補助事業者の販路拡大を目的に、ものづくり補助金を活用して開発した商品、技術、サービス等を広く情報発信するためのWEBサイトがオープンしました!

ものづくり補助金事業者以外の組合及び組合員の方々にも事業活動の幅を広げる情報収集のツールとしてご活用いただけます。ぜひご覧ください!

【HP掲載内容】

- ①G-Clubメンバー紹介
- ②ものづくり補助金による成果事例紹介
- ③G-Club支援コーナー(活動報告等)

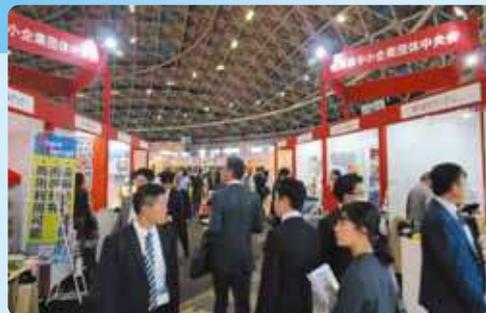
【G-Clubの活動報告】

「メッセナゴヤ2018」に出展しました!

岐阜県中央会では、11月7日から10日に開催された日本最大級の異業種交流展示会「メッセナゴヤ2018」に出展しました。G-Clubのメンバーから16社が集結し、ものづくり補助金を活用して開発した新製品やサービス、技術等を展示・PRしました。

出展にあたっては、展示会を成功に導くための「展示会ステップアップ勉強会」を8月から3回にわたって開催し、メッセナゴヤ出展者を含めた延86人が参加しました。ものづくりセンターの天野支援専門員が講師となり、展示ブースの見せ方や当日の対応、アフターフォローなどを説明したほか、展示会経験者であるテクナード(株)と(株)モールデックによる事例発表、ワークショップを行い、知識を深めました。

メッセナゴヤ4日間の来場者は61,952名と大盛況。今回の展示会では日本で初めてAIを用いたビジネスマッチングサービスが導入されました。展示会出展者1400社以上の企業・団体の中からAIが最適な事業者を提案するもので、出展者・来場者ともアポイントメント等に活用し、効率的なビジネス交流が促進されました。



メッセナゴヤ出展の様子



展示会ステップアップ勉強会の様子

本会ブース出展者からは「具体的な商談につながり有意義であった」という声が聞かれ、今後の成果が期待されます。

G-Clubとは:平成24~28年度補正予算による「ものづくり補助金」に取組んだ県内事業者782者が、補助事業終了後における売上高・収益拡大を目的に、事業者同士が連携・交流を図りながら販路拡大、新商品・製品開発や新サービス創出など、経営の競争力向上に向けた下記の取り組みを行います。

- | |
|---|
| <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①企業交流会の開催(新たな人脈、ネットワークづくり) ②ビジネス展示会の開催/共同出展(商談機会の創出) ③研究会活動の支援(課題研究、連携組織の検討) ④販路拡大・販売促進に繋がる成果(開発製品、技術、サービス)のPR ⑤販路拡大・販売促進に繋がる有益な情報の提供 |
|---|

この広報誌は岐阜県からの助成を受けています。